



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

# もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者  
 大分県議会・県民クラブ  
**守永 信幸**  
 〒870-0022  
 大分市大手町3-1-1  
 TEL 097-506-5088  
 FAX 097-538-0136

## パンデミックとの闘い、どう向き合うか

新型コロナウイルスの感染者が大分県内で初めて確認されてから32ヶ月が経過しようとしています。感染拡大初期は、健康な方が感染して急に肺炎になり、エクモ(人工呼吸器)が必要となったり、急逝される事例などが頻繁に報道され、未知なウイルスとして不安が広がりました。その様な不安から、感染者や感染リスクのある職場で働く方々を差別する言動が発せられる嘆かわしい状況ともなりました。時間の経過とともにウイルスが変異し、感染力が増す一方で、ワクチン接種の効果も出始め重症化率は減少傾向となりました。感染の波が第7波にまで及ぶ中、様々な情報が明らかにされ、不安感は和らいできました。しかしながら多くの方々の油断が危惧される状況も感じられます。体力の弱った高齢者や基礎疾患のある方にとっては、重症化リスクは存在する訳ですから、大切な人の命を守る行動として、衛生管理には心を留めて頂きたいと思います。

さて2022年第3回定例県議会は、9月7日から27日まで開催され、私は一般質問に立たせて



▲一般質問に立つ守永

頂き、①コロナ禍における健康寿命日本一に向けた取り組み、②女性の活躍推進、③地域の小児医療体制、④県職員の職場環境、⑤日豊本線の複線化と老朽化対策の5項目について質問しました。

この活動報告では、「コロナ禍における健康寿命日本一に向けた取り組み」と「日豊本線の複線化と老朽化対策」について触れました。その他の質問項目については、大分県議会のホームページ「インターネット中継」から録画中継がご覧頂けますので、検索してご覧下さい。

## 新型コロナ禍の下、健康寿命日本一への取り組み

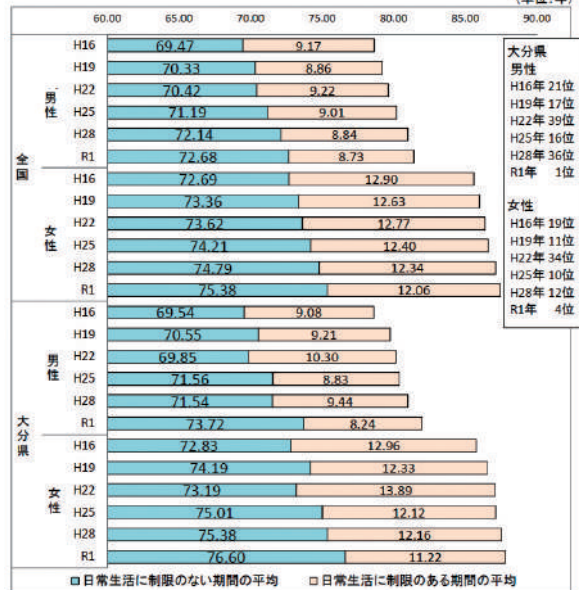
### 健康寿命とは

健康寿命は、健康上の問題で日常生活に制限を受けずに過ごせる期間のことを意味します。大分県の男性の健康寿命が2019年のデータで日本1位、女性が4位となりました。平均寿命と健康寿命との期間の差が日常生活に制限のある期間となりますが、制限のある期間も男女共に2004年以降で最も短くなっています。

一方新型コロナ禍によって長い期間、生活に様々な影響を受けています。県として健康寿命の延伸に向けどの様に取り組むか質問しました。

【守永】広瀬知事は健康寿命として厚労省から示される数字が3年に1度の調査であり毎年の評価が困難なことや、市町村ごとの結果が分からず取り組むべき課題の分析、評価が難しいことなど

健康寿命「日常生活に制限のない期間の平均」(単位:年)



暮らしの相談承ります。

TEL 097-506-5088  
 FAX 097-538-0136

(前ページから続く)  
 から、「健康寿命のさらなる延伸に向け、お達者度、有所見率、健診受診率、生活習慣と健康行動等12項目からなる客観的な指標を新たに設け、市町村ごとに、強み、弱みを明確にして、対策を講じていく」と言われました。

一方新型コロナ禍で、この2年半余りの生活環境は大きく変わりました。新型コロナ感染発症初年度の2020年度は重症化リスクの高い高齢者を中心に、医療機関訪問を避ける行動が顕著で、特定健診の受診率も大きく減少。これまで順調であった健康づくりの取り組みにブレーキがかかったのではないのでしょうか。

コロナ禍により醸成された県民の健康意識をバネにしつつ、特定健診受診率の向上やフレイル対策(注)に取り組むなど、状況の変化や悪化等をしっかりと把握し、それらに軌道修正を加えながら、男女ともに健康寿命日本一の目標実現に向けた取り組みを加速させることが重要と考えますが、知事の考えはいかがか。



▲答弁する広瀬知事

【広瀬知事答弁】

客観的補助指標の活用

新型コロナ感染症と向き合いながら日常生活を送る中で、私たちの健康に対する意識は大きく変化している。

昨年12月の「男性の健康寿命日本一」達成は、県民の健康への関心を更に高め、県民向け健康アプリ「おおいた歩得(あるとつく)」も多くの方に活用頂いている。

今年から開始した客観的補助指標の活用も、指

標毎に市町村の強みや弱みを「見える化」したことで、新たな動きが出始めている。由布市ではプロジェクトチームを編成し、由布市の健康上の強みや弱みを広報誌に連載して住民に伝えるなどの市を挙げての取り組みにつなげている。県では健康寿命延伸アクション部会を新たに設置し、市町村間の情報共有を進め、好事例の横展開を図っている。

コロナ禍での特定健診受診率の回復

2年半に及ぶコロナ禍がもたらす不安要素に的確な対応が必要。中でも高齢者の特定健診受診率の低下については、外出自粛による受診控えに加え、検診自体の中止なども影響している。そこで、県医師会と連携して身近な医療機関においてコロナ禍前と同様の特定健診実施を働きかけ、高齢者に安心して受診できる機会を確保。併せて、受診者同士の密の回避策等を盛り込んだ感染防止対策チェックリストを検診機関に配布し、感染リスクの低減にも努めている。

フレイルチェックシートの普及

日本一の参加率を誇る通いの場の確保に向け、ウイズコロナ仕様として、オンラインによる開催方法の紹介や支援員の派遣等を通じ、活動の継続を支援している。加えて高齢者が自身の運動・口腔機能や栄養状態等を確認できるフレイルチェックシートをわかりやすく改訂し積極的な活用を促している。

今後とも、コロナ禍に適切に対処しながら「男女ともに健康寿命日本一」をめざして県民総ぐるみで取り組む。

(注)フレイル：加齢により体力や気力が弱まっている状態。要介護の前段階と考えられており、早めの適切な介入により再び健康に戻れる状態。



# 鉄道を基軸に地域公共交通網の拡充を

## 鉄道路線について

日本の鉄道は、1872年10月14日に新橋－横浜間で開業し、今年で150年が経過しました。県下の鉄道営業運転の歴史は125年。1897年9月25日に宇佐市の長洲駅まで豊州鉄道(ほうしゅうてつどう)として延伸したことから始まります。1907年に鉄道国有法により国有化され、大分駅まで延伸したのが1911年。1920年には神原駅(ごうのはるえき・現在の直川駅)まで延伸し、1923年豊州本線と宮崎本線が結ばれ日豊本線となっています。

一般質問では、日豊本線の複線化や施設の老朽化対策について質問しました。

## (1) 日豊本線の複線化

日豊本線は、大分駅以南は単線です。大分市は2017年から人口が減少に転じましたが、大分市大在・坂ノ市エリアは人口増大地域です。鉄道等の公共交通の利便性の向上により通勤手段として電車やバスの利用者の増大が見込まれます。しかし大分駅以南が単線のため、ダイヤ編成での著しい利便性の向上は難しいのが現実です。

大分駅から大在、更には臼杵駅まで複線化することで、通勤時間帯の電車の本数を増やし、利用者の便宜性を高めて鉄道利用者を増大させることができます。自家用車から電車への移行が進め

ば、道路渋滞の緩和、バスの定時性向上、バス利用客の増加などが進むと考えられます。

また日豊本線などの鉄道を基軸として、バス路線との連携による公共交通網を整備することは、自家用車利用者削減によるCO<sub>2</sub>の排出抑制にもつながり、地球温暖化対策、ひいてはカーボンニュートラル社会の実現に向けた施策としても重要であると考えます。

県も長期総合計画の中で以前から日豊本線の複線化を掲げていますが、具体的にどのように促進していくのか、企画振興部長の見解を伺います。

#### 【企画振興部長答弁】

日豊本線は、通勤・通学などの日常生活に加え、観光や経済活動に伴う人流・物流を支える極めて重要な社会基盤。そのため、県及び沿線市町と商工団体等で構成する「日豊本線高速・複線化大分県期成同盟会」では、日豊本線の複線化や増便等について、JR九州に毎年要望し協議している。

全線複線化に向けては、まずは更なる需要の喚起が必要。そこで期成同盟会では、沿線市町のPR動画をYouTubeや博多駅等の電子掲示板に掲載し、旅行需要の喚起を図るなど、日豊本線の利用拡大に取り組んでいる。

またJR九州も「36ぶらす3」等のD&S列車を活用した旅の魅力向上や、割引切符の設定など、日豊本線の利用促進に向けた各種施策を実施している。特に、単線区間の大分駅以南については、県南の豊かな食材や自然を体験できる鉄道を利用した旅行商品を企画し、利用客の増加を図っている。

引き続きJR九州や沿線市町と連携し、日豊本線の複線化の実現に向けた取り組みを推進する。

## (2) 日豊本線の老朽化対策について

日豊本線は古い歴史を持った鉄道だけに、河川にかかる鉄橋などの中には老朽化が進んでいるものがあります。

例えば杵築駅の大分側に八坂川を跨ぐ鉄橋があります。1911年の延伸時に建設され111年が経過します。近年、豪雨災害や大規模な地震など、予測が難しい自然災害が頻繁に発生している中で、これら災害に耐えうる強度が保持されているのか心配されます。しかも、杵築駅から日出駅までの8kmは単線区間となっています。万一老朽化によって鉄橋が通れなくなるようなトラブルが生じれば、大分ー小倉・博多間の利便性は大きく悪化してしまいます。場合によっては大分県の経済活



▲八坂川に掛かる鉄橋

動に悪影響を及ぼすことも懸念されます。

基本的にこれらの施設は、JR九州が維持管理をしていますが、老朽化が懸念されるインフラ施設を県として把握し、その整備に努めることは、災害に強い大分県の実現にもつながります。この問題は、東九州新幹線の計画が具体化する前に対策しておかなければ、計画が具体化すると、先延ばしになりかねません。実際にトラブルが起きてからでは遅いと考えますが、日豊本線の老朽化対策について、県としてどのようにお考えかお尋ねします。

#### 【企画振興部長答弁】

鉄橋等の施設がひとたび被災すると、復旧に至るまで大変長い時間を要し、沿線住民の方々の日常生活や観光、経済活動に重大な支障をきたす。また日豊本線は、東九州と日本全国を結ぶ貨物ネットワークの一翼を担っており、その寸断は全国の物流にも多大な影響を及ぼす。

このため日豊本線の老朽化対策は、当県のみならず九州各県が連携して取り組むべき課題であると認識している。

現在、県は九州各県で構成する「九州地域鉄道整備促進協議会」等を通じて、老朽化した鉄橋の改修・改築等をJR九州に要望しており、JR九州は、河川改修等に合わせて施設の改修を順次進めている。また国においても、「JR河川橋梁対策検討会」が設置され、JR各社と鉄道の更なる安全・安定輸送の確保を図るための検討が行われている。

県としては、国の動きも注視しつつ、引き続き、JR九州、九州各県、沿線自治体と緊密に連携しながら日豊本線の老朽化対策に取り組んでいく。

# 救えるはずの生命を救うために ～救急救命士の医療行為拡大を～

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会が、10月19日に開催されました。社会医療法人三愛会の三島康典理事長が参考人として招かれ、病院現場から第7波を振り返った現状について話して下さいました。①入院患者の高齢化が顕著であった、②自宅からの高齢者入院が多くを占めた、③これまでで最高の死亡率（入院患者における死亡率）、④入院の理由は脱水、呼吸困難、意識障害が最多、⑤治療の選択肢が増えたことで、在宅での療養が可能となった、⑥感染爆発で救急搬送困難事案が増大し救急医療体制が危機に瀕した、⑦多くの職員が感染していく中で医療体制を維持することの難しさ、⑧ワクチンの効果は限定的か？など、具体的に触れました。

の準備は常に必要です。これまでのデータに基づく科学的な振り返りが望まれます」と結んだ三島理事長の言葉を真摯に受け止め、体制整備を進めていかなければなりません。



感染者がゼロとならない中で、手法を凝らして日常を取り戻す。

## 緊急搬送困難事案の増加

三島先生からは救急医療体制の大きな課題が報告されました。特に発熱患者の搬送で深刻な救急搬送困難事例が散見されているとのこと。救急搬送困難事例とは「医療機関への受入れ照会回数4回以上かつ現場滞在時間30分以上」となった事案のことで、中でも重大事案の一例として右枠に示した事例が紹介されました。

コロナ感染者が少なくなる中で日常生活が取り戻されます。しかしその裏側では、過去最高の感染者が発生しており、全体として軽症者がほとんどではあるものの、病院に入院された患者の死亡率は高まっていました。

また、感染率が高い状況でコロナ病棟の看護師を含む多くのスタッフが感染しました。そのため病棟をフル回転させることができず、通常の医療機能を維持することは極めて困難な状況となったとの話が印象深く残りました。

## 今後の課題

「私たち人類はパンデミックから逃れることはできません。パンデミックと共に生きていくため

### 重大事案の一例

- 年齢 50歳代
- 高熱、ふらつき、意識障害で救急要請
- 救急隊到着時の症状  
意識不明で、体温40.0℃、血中酸素濃度90%、血圧も低くなっており脈拍は150/分を超える状態
- 11の病院に合計14回の受入れ要請を行ったが受入れ不可。11の医療機関中6医療機関が「コロナ病棟空床なし」で受入れ不可との対応。  
救急要請から1時間42分後に12軒目の病院に搬送（管外搬送）。その後三次医療機関へ搬送され、翌朝死亡した。  
死因は重症熱中症、新型コロナは陰性であった。

- ◇コロナ陰性を確認できれば、早期に受入れ医療機関があったのではないかな？
- ◇コロナと診断された場合も、その後の転送システムが整備されていれば受入れ医療機関を早く見つけられるのではないかな？
- ◇現状では、抗原検査は救急救命士が実施できる特定医療行為のリストにないが、現場での抗原検査が必要ではないかな？

## お知らせ

- ◇常任委員会は「文教警察委員会」に所属。
- ◇行政や暮らしの相談をお受けしています。  
お気軽にご連絡下さい。
- ◇グループでの集まりなどに、お声がけ頂ければ、日程を調整の上、参加させて頂きます。
- ◇守永信幸後援会の会員を随時募集しています。  
年会費3千円です。

連絡先：097-532-4919  
FAX：097-534-6598

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症の感染者数は下げ止まり気味、第8波の早期突入が気がかりです。  
▶病院現場やエッセンシャルワーカーの感染抑止対策充実が求められます。インフルエンザの同時流行も懸念され、受験生の健康保持、地域経済の好循環を導く方策も共有したいもの。▶衛生管理の徹底とワクチン接種などのウイルス感染防止に、基本を忘れず徹底していきましょう。